

ホロコースト・震災・詩

報告者・細見和之(大阪府立大学)
司会・西成彦(立命館大学)

10月12日(金) 18時00分～20時00分(開場 17時30分)

※参加無料・事前申込不要

第2回

真空の文学

―表象としてのカタストロフィ―

10月19日(金) 17時30分～19時30分(開場 17時00分)

※参加無料・事前申込不要

報告者・川口隆行(広島大学) 村上陽子(東京大学)
ディスカッサント・福岡良明(立命館大学)
司会・中川成美(立命館大学)

会場：立命館大学衣笠キャンパス
末川記念会館第3会議室

主催：立命館大学国際言語文化研究所
第1回、第2回で開催時間が異なりますので、ご注意ください。

【お問合せ先】立命館大学国際言語文化研究所
TEL: 075-465-8164 mail: genbun@st.ritsume.ac.jp
URL: http://www.ritsume.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/lcs_index.htm

【第1回】ホロコースト・震災・詩

報告者：細見和之(大阪府立大学・詩人・第7回三好達治賞受賞者)
司会：西成彦(立命館大学)

災厄(ショアー)のただなかで書くこと 細見 和之

今回の東日本大震災のなかで、私たちは新たな形で「詩」と出会った。

テレビでは、しばらく一般のCM放送が停止されるなか、金子みすゞの作品を中心に、繰り返していくつかの「詩」が流されつづけた。ああいう状況で引用されうる作品、あるいはその引用という行為にたいするアンビバレントな感情――。

一方で、被災のただなかでツイッターで流しつづけた言葉をもとに和合亮一さんが詩集をまとめ、大きな話題になった。言葉が薄まっている……、震災に便乗した売名行為……など、狭義の詩の世界ではいまにいたるまで批判のほうが強いが、小説のように10年寝かせて書くというのとは、違う意味(役割)が詩にはあるのではないか。

この文脈において、災厄のただなかで書いた詩人の代表としてイツハク・カツネルソンをあらためて考えたい。カツネルソンは、ワルシャワ・ゲットーの飢えと寒さのなかで「空腹の歌」「寒さの歌」という詩を書き、さらにはヨブ記にもとづいて「ヨブ」という戯曲を、エゼキエル書にもとづいて「バビロンの川のほとり」という大きな戯曲を書き上げた。そこでの作品行為の意味を考えたい。

最後に、阪神・淡路大震災に際して書かれた詩の代表的な作品として、季村敏夫と杉山平一の作品を朗読し、さらに私自身が今回の震災に際して書いた2篇の詩を朗読する。

ワルシャワ・ゲットー詩集
イツハク・カツネルソン(著)
細見 和之(訳・解説)



ワルシャワ・ゲットー詩集
イツハク・カツネルソン
細見和之 訳・解説

【第2回】真空の文学ー表象としてのカタストロフィ

報告者：川口隆行(広島大学)、村上陽子(東京大学)
ディスカッサント：福間良明(立命館大学)
司会：中川成美(立命館大学)

核のカタストロフィと表象ー原爆文学における日常の崩壊と再生ー 川口 隆行
原爆の刻印ー大田洋子「ほたる」論 村上 陽子

文学が日常に潜む人間の複雑な感情の襞を描いていくことに最も優れた媒体であるのは言うまでもない。しかし、その日常が圧倒的な崩壊や惨禍によって奪われ、なおも不可視の未来という空白の地図を描こうとする人間の営為を描くことにもまた有効な書記の方法として機能することは、原爆文学という稀有の文学形式をもつ私たちにはすぐに諒解されるであろう。カタストロフィを表象する行為とは、喪われた過去の日常に対峙しつつ、未来に向かう新たな日常を始動させる矛盾と緊張に満ちた営みにほかならず、その「真空」の時空の中に込められる思いは重く、高く、熱い。

秋季企画としてこの回は原爆文学を取り上げ、川口隆行氏からは原爆文学と呼ばれるテキストの膨大な蓄積を参照しながら、核のカタストロフィと表象との関係についての総論を、また村上陽子氏からは具体的な作品、大田洋子「ほたる」を対象に、作品内に「刻印」された原爆の痕跡としてのケロイドに注視し、見る／見られるという関係の中で原爆という体験がいかに受容されたかを考察する。

原爆文学という問題領域
川口 隆行(著)

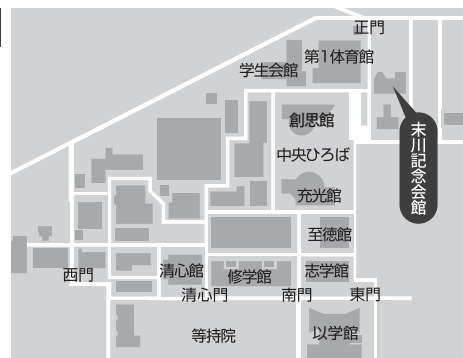


アクセス

立命館大学 衣笠キャンパス

- JR・近鉄 京都駅より 市バス50・205
- JR 円町駅より 市バス15・204・205
- 阪急電車 西院駅より 市バス205
- 阪急電車 大宮駅より 市バス55
- 地下鉄 西大路御池駅より 市バス205
- 京阪電車 三条駅より 市バス15・59

- 市バス15・50・55・59にて「立命館大学前」下車/徒歩5分
- 市バス204・205にて「衣笠校前」下車/徒歩10分 西門



お問合せ先

立命館大学国際言語文化研究所

TEL: 075-465-8164 mail: genbun@st.ritsumei.ac.jp
URL: www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/lcs_index.htm